

創刊110周年記念

# 誇れるふるさと

## 24地区リレー

〈vol.18〉

### 〈吉部④ 散策マップ〉

かつて旧船木街道の宿場町として栄えた吉部地区。明治から昭和にかけては、資材の集積地としてにぎわってきた。吉部ふれあいセンター(①)を発着点に、歴史があふれ、自然豊かな約2・8キロのコースを約1時間かけて巡った。



## 郷愁そそる田園風景を巡る

### 吉部八幡宮や大棚トンネルも

同センターは吉部出張所と併設され、2階には郷土資料室もある。その北側に建つ吉部八幡宮(②)は鎌倉時代の1261年に創建。本殿前に建つ「ま犬の1体(③)」だ。2004年に吉部中の跡地に移転した。県道小野田美東線を出てすぐ右手に旧吉部小(④)が見える。現在は、北部地域の活性化に取り組み「うべの里生徒会」が廃校舎を活用して職員室カフェなどを展開。今も児童用の机や椅子が残

り、地元農家の野菜も販売している。

新旧小学校の間を抜けて小高い鉄道敷跡をしばらく歩いたところに大棚トンネル(⑤)がある。石積みとアーチ状に積み上げられたレンガが残り、全長は約37メートル。船木鉄道は旧山陽道船木宿と山陽鉄道現JR山陽線を結ぶ。同八幡宮から西にあぜ道を200メートル歩き、厚東川支流の殖生川に沿って南に進むと、正面が吉部小(③)だ。2004年に吉部中の跡地に移転した。県道小野田美東線を出てすぐ右手に旧吉部小(④)が見える。現在は、北部地域の活性化に取り組み「うべの里生徒会」が廃校舎を活用して職員室カフェなどを展開。今も児童用の机や椅子が残

山あいに広がる田園風景は古き良き時代を思わせる癒やしの空間。公園やあすまやも多く配置されているので、歴史を感じながら郷愁をそそる「吉部の里」を散策してみよう。うたろっか。

次回は鶴の島地区。14日スタート。

ぶ鉄道として1916年に開通。26年に吉部まで達し、石炭輸送などに用いられたが、太平洋戦争末期の44年に金属を補ったために線路を鉄として供出したため、廃線となった。県道を渡って南側に600メートルほど進み左に曲がると、吉部稲荷神社(⑥)の鳥居が待ち構える。あぜ道を進み、同社の参道を通ると同ふれあいセンターに戻る。